

皆でつくり感動を

わかち合った「いのちの歌」

黒崎町 わらび座を見る会、わらび座公演をプロデュース

11月19日——総合体育館



鳥舞

種をまき、苗を植え、力を合わせて働く初々しい若い農村夫婦の愛情と希望をつがいの鶏にたくして踊る。

十一月十九日(金)、町の総合体育館で、民族歌舞団「わらび座」の『いのちの歌』公演が行われました。

これは、「黒崎町わらび座を見る会」が「わらび座公演を黒崎町で開き、地域に感動と文化的刺激を与えたい」と招いたもので、チケットの販売も協力しました。

当日は、同会鈴木会長の「見る会の皆さんのおかげで、今日の公演に至りました」とねぎらいのあいさつで開演。第一部は「生きる」をテーマに「銚子雛子(ちょうしにばやし)」や「沖揚げ音頭」など自然をおそれ、うやまいながらも明日を求めて生きる人々のエネルギーを感じさせる唱、踊りや太鼓を披露しました。約八百人の観客は、その熱演に圧倒、魅了され、

踊りや太鼓が終わると、おしみな拍手が贈られていました。また、第二部では「育む」をテーマに「創作太鼓」や「鳥舞」などを披露しました。

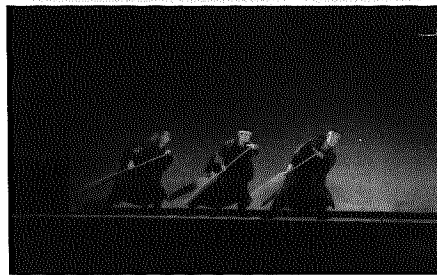
「こんな素晴らしい舞台は初めて見た。皆が一生懸命汗だくになっている姿は素晴らしく、生きている喜びを教えられた気がする」など観客の評判は上々で、まさに感動をおぼえた舞台でした。チケット売りや会場の設営、あとかたづけなどを手伝った同会員からは「チケットを売る時は苦労したけれど、素晴らしい舞台が見れて感激しています。これもわらび座の皆さんと制作の高原さんのおかげです。ありがとうございました。また黒崎で公演を」と言葉が寄せられました。



創作太鼓「大地の鼓動」 熱演に汗と情熱がほとぼしる



秩父屋台雛子
太鼓、鐘、笛の合奏で
舞台はクライマックスに



沖揚げ音頭



花束贈呈
公演終了後、ステージでは
見る会の皆さんから出演者に
花束が贈られた



お盆の舞い
気合とともにキメのポーズ